

# 研修レポート

令和7年7月30日

学校名	滋賀県立国際情報高等学校	氏名	三坪 達弥			
研修名	令和7年度JAEF研修会 この研修会は、教員自らが体感した「モビリティの魅力」や「気づき」を生徒に伝えることで、生徒が将来モビリティ分野を志望するきっかけとなるよう、公益財団法人 日本自動車教育振興財団により企画されたものである。					
実施日	令和7年7月30日					
場所	富士スピードウェイ 静岡県駿東郡小山町大御神645					
日程	10時00分 富士モータースポーツミュージアム見学 11時00分 ウエルカムセンター & ルーキーレーシングガレージ見学 11時45分 CRANE Garden (昼食) 12時40分 バックヤードツアー 13時00分 カートイベント 16時00分 終了 閉講					
<h2>「富士モータースポーツミュージアム見学」</h2>						
<p>モータースポーツがクルマを鍛え、進化させた熱い歴史をたどるミュージアム。</p> <p>世界初のレースは、馬車に代わる新しい移動手段としての動力源として何が優勢かを競うことから始まった。</p> <p>その3つの動力源は、蒸気機関、電気、ガソリンエンジン。</p> <p>アメリカのヘンリー・フォードは、「富裕層の持ち物であった自動車を、一般の人にも買えるものにし、自動車を使うことによって人々の生活を豊かにしたい」という大きな夢を抱いて大衆車を世に送り出し、世界中の庶民に広く自動車を普及させた。</p> <p>彼は夢の実現手段として、モータースポーツに力を入れました。その理由は、大きく二つ。一つはモータースポーツでの勝利や世界記録を樹立することで資本家の関心を惹くことで資本を調達する。もう一つはフォード車の優秀性を証明するため。999号車以来、モータースポーツは技術革新の最前線であり続けており、市販車開発&amp;改良の場となっている。</p> <p>モータースポーツから生まれ、現在の市販車に活用されている技術で代表的なものは、セミオートマ。ディスクブレーキ。AWD。アクティブサブペンション。トラクションコントロール。多機能統合型ステアリングなど。博物館は、130年にわたる進化や挑戦の歴史と自動車の未来をつなぐものとなっています。</p> <p>ミュージアムを見学して、感じたことは、非常に興味を持って見学させていただきました。授業で話すパナーム車からHONDA F1などレース車両の歴史がすごく理解できました。それぞれの造形の美しさが感動でした。コンピュータで計算されたものとは違い人間の感性で作られたレース車両に関しては芸術性を感じられます。そして歴史を理解しやすい展示の方法など生徒に見せてあげたいと感じました。未来に向けてのワクワク感を感じることもできました。限られたスペースなのに充実した内容でまた訪れたいと思っています。今後のレース車両の展示に期待したいです。EV車も。</p>						
           						

# 「ルーキーレーシングガレージ見学」

ここでは、エンジニアやメカニックが真剣に働く様子や、タイヤ交換練習のピット作業など、普段見られないようなシーンを目にすることができます。

ドライバーは1秒にしのぎを削ります。ドライバー以外で勝敗に大きく影響するものは何でしょうか

それは、日々の車両開発を行っているスタッフ。レース運営のマネージメントスタッフ。車両整備のメカニックなどレースに関わっているスタッフ全員の協力が必要。またスポンサーの協力も必要となってくる。

ドライバーだけでは成り立たないチームスポーツなのです。

実際の作業を見学して感じたことは何かというと

それは、環境面の整備されていることに感心した。整備のレベルを上げるために環境は大切だと思います。メカニックという職業が子どもたちにとってもっと憧れの職業になってほしい。という想いが伝わってきました。



## 「カートイベント」体験

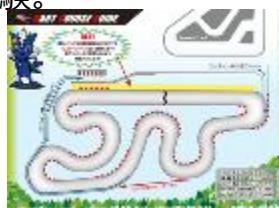
モータースポーツの登竜門であるカートを気軽に体験できる。手ぶらで誰でも参加可能で子供にはタンデムも可能な施設。

実生活の中でなかなか経験できないクルマでの競い合いに当事者として参加し、スリルとワクワクを感じられる体験。

### 【プログラム】

- 1.練習走行
- 2.予選タイムアタック（個人）
- 3.決勝レース（団体・40分耐久）

### 【タイムアタック記録】



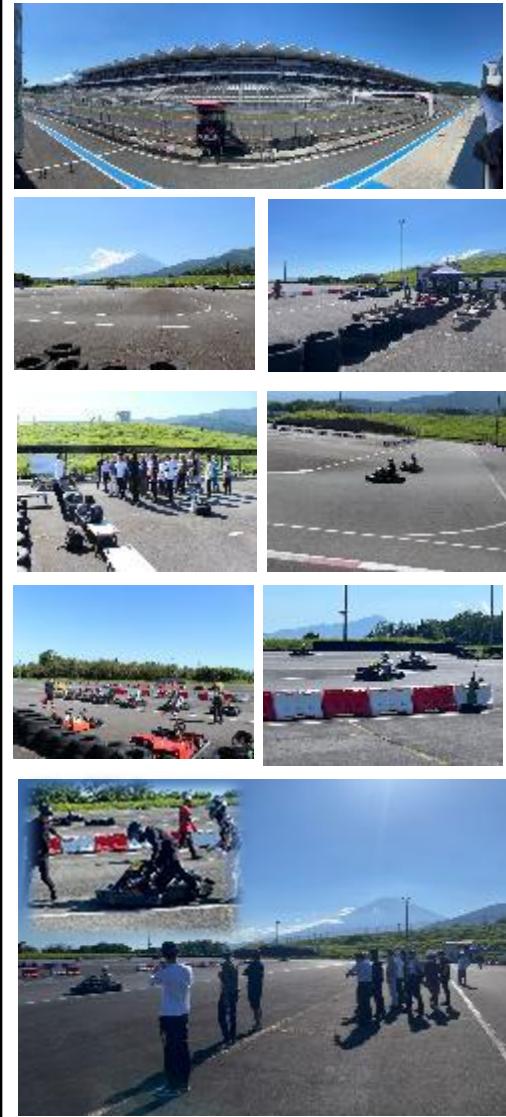
Lap	練習	T A				
Time	49. 560	45. 788				

コーナーを曲がる際、ブレーキは何処でかけ、アクセルは何処から踏むことで、スムーズなコーナリングができるかというと、

ストレートからコーナに入る手前で減速しアクセルを踏み込みながらコーナーを立ち上るのが普通。コーナーが繋がっているとブレーキにより速度が落ちすぎ加速しなくなるので注意が必要。でもできなかった。

この実習の中で、痛快だった点・難しかった点・工夫した点は

今回カート体験でしたが、今までカートはシートに座れず（体型の関係）でほとんど体験したことがなかったのですが、今回は体験できいい経験をしました。思っていたほど簡単でなくスムーズの乗ることができず少し悔しく感じました。安全な場所でこのように走行体験できカートの面白さを伝えることができます。頭で考えているように体も動かず体力面に反省をしていますが、何よりおじさんたちが一生懸命にレースをしているのが楽しくて、見ていて笑顔になりました。車好きな人が集まっているのがすごく感じて気持ちいいいい体験でした。先生方でもこんなにおられるんんだと安心しました。



【今回の研修全体を振り返った感想】今までとは異なる研修でした。車は楽しい。楽しむを中心に行われそれを楽しませていただきました。子どもたちに伝えていく上での経験になり今まで同様にありがとうございました。滋賀県で10数年まえに各ディーラー、整備振興会、専門学校さんと一緒に整備士さんを増やそうというイベントを行ってきました。子どもたちに車の楽しさを伝えるために電動カートなどでイベントも行いました。今年も学園祭でディーラーさんに車を展示してもらっています。しかし、周りの目はだんだん冷ややかです。しかし、今回の研修はわたし自身の基本に戻るいい研修でした。素敵な車を見学し車って綺麗だと感じ、レースの世界から未来へ向かう現状を見せていただき、レースの楽しさを再度体験から思い起こさせてもらいました。おじさんたちの楽しみだけでなく、若い先生も楽しんでおられるからまだまだ心配はいらなかないと感じました。定年を過ぎて心配していたのですがまだ頑張って車の楽しさを伝えています。車業界へ進む人を育てていきたいと思っています。今後も同様な研修に参加したいと思います。ただ暑い時期には参りました。このレポートは息子と8耐を見ながら書きあげました。